

- ◇ **木曜日**
- ◇ **10月20日**
- ◇ **午後5時00分開始**
- ◇ **情報科学研究科棟 2F 大講義室**

話題：津波被災地の復興と女性の参画

—岩手県陸前高田市でのフィールドワークを通して見えてきたもの—

話題提供者： 牧野 友紀 助教

(人間社会情報科学専攻 社会政治情報学講座 社会構造変動論分野)

1000年に一度の災害と言われる東日本大震災からはや7ヶ月が過ぎ、事態の打開が模索されるなか、被災者とは誰か、復興、支援とは何かということが改めて問い直されている。

岩手県南東部に位置する陸前高田市は、震度6弱を観測し、大津波により市街中心部が壊滅状態となった。人口の7%が死者および行方不明者となっており、全壊世帯も全体の47%に及んでいる。そのなかで、浸水被害のなかった横田地区では、震災直後、地域ぐるみで支援活動を行った。そうした活動の実際を調べると、女性が、支援のアイディアを提案したり、支援活動の重要な担い手となっていたことがわかった。そのような活動の前提には、震災以前から活躍する女性の姿があり、「地域づくり」のイニシアティブを発揮していたことが看取された。なぜ、横田地区の女性は、頑張ることができたのか。そこには、こういった地域のメカニズムが関与しているのか。

今回は、震災復興と女性の参画のあり方について、震災以前から取り組んでいたフィールドワークをふまえ、中間報告としてお話ししたい。

第43回 情報科学談話会